



5月号

学校だより

育ち学ぶ当事者 支える当事者 下福田小学校

- よく考える子
- 思いやりのある子
- 健康で明るい子
- がんばる子

令和6年5月1日

育ちはゆっくり着実に

学校長

この春は桜を長く楽しむことができました。校庭のソメイヨシノが咲き終わった後は、校舎裏、北門の脇のヤエザクラが引き継いでくれたようでした。自然の環境に恵まれた下福田小学校、今は盛んにつばめが飛来する姿を見かけます。新緑がまぶしい季節となり、春らしい日だけではなく汗ばむような日もありますが、季節が逆戻りしたような肌寒いこともありますので、体調管理には十分にご留意ください。

4月の2週目には児童会行事「はじめまして1年生」がありました。6年生の子が出題する「下福田小学校〇×ゲーム」をととても楽しんでいる様子が印象的でした。一堂に会し、上級生は温かく迎え、1年生は仲間入りの挨拶をする場となりました。

どの学年も新しい担任のもと、新たに出会った友達とのクラスづくりが少しずつ進んでいるようで、令和6年度の下福田小学校は、順調にスタートしているところです。

「這えば立て 立てば歩めの 親心」 — 教職に携わる我々には馴染みのあることわざです。子供たちは日々成長をしていきますが、いつの時代でも、親はそれを心待ちにしているという思いが込められています。

保護者の皆さんだけでなく、地域の方々も子供たちの成長を楽しみにしてくださっていると思います。本校は地域の方々の見守りがとても厚く、大変ありがたく感じています。前任校でも同じように見守り活動をしてくださっていましたが、ある自治会長さんの言葉は今でも耳に残っています。「私は子供たちから挨拶が返ってこなくても気にしません。それがその子の今の心の状態なのだろうなと受け止めていますよ。きっといつか、元気な挨拶ができるようになるのを期待しています」。とても温かいものを感じました。

下福田小学校では児童指導のめあてとして年間、「あいさつをしよう」を掲げています。元気に挨拶ができる子もいる反面、まだ習慣が身につけていない子、挨拶の大切さを理解しながらも恥ずかしさが勝ってしまう子もいます。2日には「見守り隊よろしく朝会」がありますが、この地域で育つ子供たちが、地域の方々への感謝の思いを伝えることができるように、学校でも指導してまいります。

挨拶を含め、子供たちの成長には差があるものです。たとえゆっくりであっても着実に育っていくことを、家庭、地域、学校、それぞれの立場で支えていけることが大切なことだと思います。